

令和4年度秋季大会シンポジウムプログラム

○シンポジウムⅠ（果樹）9月10日（土）9時から

果樹用機械の自動化・ロボット化と機械化樹形の開発による果樹生産の大幅な省力化

（公開シンポジウム：非会員にも公開）

接続先：<https://c3.classtream.jp/view/JSHS2022/>

（コンビーナー）草場 新之助（農林水産省技術会議事務局）

プロジェクトの概要

草場 新之助（農林水産省技術会議事務局）

1. 自動走行車両の開発と多目的利用技術

石山 健二（ヤマハ発動機（株））

2. 果樹園自動走行車両の制御技術

栗田 寛樹（愛知工科大工学部）

3. 果実収穫ロボットの開発

吉田 武史（農研機構ロボ研）

4. 機械化樹形による省力生産技術

柴田 健一郎（神奈川農技セ）

5. 開発技術を導入した大規模果樹経営モデル

徳田 博美（名古屋大院生命農学研究科）

6. 総合討論

○シンポジウムⅡ（病害）9月10日（土）13時から

園芸作物における病原体制御技術の現状と課題

（公開シンポジウム：大会参加者および学会員に公開、接続方法は、大会プラットフォーム・会員専用HPに掲載）

（コンビーナー）関根 健太郎（琉球大農学部）

1. 園芸作物の新規病害の発生に関する知見と将来展望—新規発生病害はどこから、どのようにやってくる？—

小松 健（東京農工大農学研究院）

2. ナス科植物におけるウイルス性病害の防除に向けた研究

小枝 壮太（近畿大農学部）

3. 花きの病害防除機構の分子生物学的理解と育種への応用

舘田 知佳（奈良先端科学技術大学院大）

4. 植物ワクチンの開発と普及

富高 保弘（農研機構植防研）

5. ウイロイドの種子伝染と植物防疫における検査法の動向

柳澤 広宣（農林水産省横浜植物防疫所）

6. 八重山のマラリア撲滅の歴史から学ぶ感染症対策と植物病害防除

関根 健太郎（琉球大農学部）

○シンポジウムⅢ（花き）9月11日（日）9時から

国産花きの国際競争力を強化する最新の栽培技術

（公開シンポジウム：大会参加者および学会員に公開、接続方法は、大会プラットフォーム・会員専用HPに掲載）

（コンビナー）窪田 聡（日本大生物資源科学部）

1. 花きの輸出に関する諸問題と花き産業の今後の展望

牛久保 茂（株）なにわ花いちば）

2. 分子生物学的知見を基盤としたキクの開花制御技術の開発と普及

久松 完（農研機構野花研）

3. 日本産トルコギキョウの国際競争力強化の課題と技術開発

福田 直子（農研機構野花研）

4. EOD-FR 反応を利用した花きの高品質生産技術の開発

岸本 真幸（鳥取農業大学校）

5. 根域環境制御装置（N.RECS）を用いた花きの根域温度調節による生育・開花促進と成長制御

村松 嘉幸（日本大生物資源科学部）

6. 環境・生育モニタリングと環境制御によるスイートピーの高品質生産

木下 良一（木下農園）

6. 総合討論

○シンポジウムⅣ（利用）9月11日（日）13時から

園芸作物の機能性表示と評価、今後の展望について

（公開シンポジウム：大会参加者以外の非会員は事前登録者に公開、接続方法は、大会プラットフォーム・会員専用HPに掲載、登録者に連絡）

※事前登録のお申込みは、こちらからお願いいたします。当日（9/11）11時半まで受け付けます。

<https://docs.google.com/forms/d/1sVaXyIQKqY8mBSnezStJDAGJHpeUdcdafgImNVfUi0I/>

（大会参加者、園芸学会会員の方は申込み不要です）

（コンビナー）加藤 一幾（東北大院農学研究科）

1. 機能性表示食品制度と園芸作物での活用

山本（前田）万里（農研機構食品研）

2. 機能性表示野菜一種苗会社の観点から－

宮本 明典（タキイ種苗（株）開発部）

3. 園芸作物の機能性評価

田中 沙智（信州大農学部）

4. 機能性表示食品に対する消費者評価

水木 麻人（農研機構東北研）

5. 園芸作物の機能性表示食品届出の実際 —効果事例, 活用の方法と制度上の問題点について—

中田 光彦（野菜で健康研究所（株））

6. 質疑応答と総合討論